

～雪から広がるさまざまな学びの世界～  
教員向けセミナー「夏こそ雪プロ in キロロ～」を実施

- 教育実践総合センター・附属札幌小学校 -

総合的な学習の時間が設けられたのを機に、本センターと附属小学校が中心となって、北海道雪プロジェクト（雪プロ）を発足させました。身近で、生活と深く関わっている『雪』を道内の学校でもっと取り上げてほしいという願いからです。このプロジェクトには北海道内の学校や博物館にお勤めの先生方、雪の研究者、行政の方などに多数参加頂いております（現在の会員数119名）。学内の方でも学長を始め、多くの先生方にご助力頂いております。

これまでは学校で取り上げる教育内容は全国ほぼ同じでしたから、雪の教育活用に関する蓄積は教育現場に殆どありませんでした。それで、学校にも普及し始めたインターネットを通じて、雪に関する様々な情報を子どもたちや先生に提供しようと考えました。それがWebページ「北海道雪たんけん館」で、年間トップページアクセス数9万件強、質問回答数200余件までに成長しました。

この活動も5年目を迎え、道内教育現場に更に浸透を図っていきたくて考えております。そこで、活動の中心となって頂いている先生方向けに標記セミナーを8月9、10日に1泊2日の宿泊研修の形で開催致しました。35名の方にご参加頂きました。これまでに実践を行って頂いた先生方へのアンケート結果では、他の先生も「利用するようになった」あるいは「関心を示している」との回答を頂きました。そ



ワークショップの取りまとめを行う参加者

れで、学校・地域で核となって頂く先生を養成することが普及を図っていく上で極めて重要と考えております。

雪利用の野菜貯蔵施設を見学した後、会場のキロロに入りました。加藤悦雄先生（赤井川村立都小）に準備万端を整えて頂きました。主な内容は以下の通りです。1）雪たんけん館を活用した模擬授業コンペと授業にどうコメントするかの検討。2）会員外の方による雪たんけん館を授業で使った上での提言。提言者は千葉一博先生（附属札幌小）と佐藤正寿先生（岩手県水沢小）。また、上出義樹さん（北海道新聞）にマスコミから見た雪プロの価値を特別提言頂きました。3）雪たんけん館とメディアを使った学習の普及をどう図っていったら良いかの検討（ワークショップ形式）。4）ゲストの堀田龍也先生（静岡大学、現メディア教育開発センター）による講演。「雪プロリーダーに期待する！」と題して、リーダーシップ論、コミュニティ論、雪プロ論などについて、熱く語って頂きました。小学校で勤務された経験もお持ちで、学校事情にも詳しく、参加者がうなづき、身を乗り出す内容でした。授業コンペ等でも、適切なお批評を頂きました。堀田先生はITを活用した学習の第一人者で超多忙であるにもかかわらず、雪プロの活動に深くご理解を賜り、特別にご来道頂いております。これだけの内容を持っているサイトなら、アクセス数が一桁少ないのではないですかと指摘され、参加者一同奮起させられました。

参加者にも大変有意義な二日間だったようで、早くも来年の日程が8月2、3日と決まりました。ボランティアに参加頂いている雪プロメンバーの皆さんに支え・囲まれながら、教育現場と共に歩む本プロジェクトをさらに推進していきたいと考えております。なお、本セミナーは科研費特定領域研究により実施致しました。全道の先生方を対象とし、雪の学習の普及を図る第4回雪の総合的な学習研究会を明年2月10日（金）に附属札幌小学校で行います。多数の参加をお待ちしております。（高橋 庸哉）

